

入賞作品紹介

19

中学生の部親子賞 入選

私を変えた新聞

会津若松市 北会津中1年 長田 夏歩さん

みなさんは、新聞を読んでいますか。今はスマホやパソコンでかんたんに日本、世界の様々なニュースを知ることができるので、わざわざ買って読む人は少ないかもしれません。

私もクラスでも、忙しくて読む時間がない、そもそも新聞なんて興味がないという人がたくさんいて、私もその中の一人

でも新聞を読みました。私の中では、新聞は大人が読むもの、内容はすごく難しいことが書いてあって全く面白くないものだというイメージでした。しかし、読んでみるとすごく面白く、イメージが一気にふき飛びました。新聞とはこんなに面白かったのかとその時思いました。

その日から、私は新聞が好きになりました。新聞はネットと違って情報が確実で、私はコンビニなどで新聞を見かけると、買ったりして読むようになった。

新聞を読むようになってからは、教科書の文章がすらすら頭に入ってくるようになったり、社会の学習が前より分かるようになったりしました。また、以前より難しい内容の本も読んで理解できるようになり、読書や学習の時間が増えました。

新聞のおかげで、私は変わる事ができました。これから大人になっても、新聞とほうまくつき合っていきたいと思いをもちます。

父から受け継いだ信頼

母 長田 佐智代さん

幼い頃の私は、新聞は必ずとるもので、夜明け前に配達されるものだと思っていた。

自営業の父は早朝から、玄関兼事務所新聞

をを広げて、隅々まで読んでいた。十畳ほどの小さな店だったが、胸を張って新聞を読む姿は、大社長の様だった。「社会人になったのだ

から、世の中がどうなっているか、常に興味を持っていないといけない。新聞を読みなさい」と、玄関を通るたびに真顔で言われた。そんなに真剣には聞いていなかったが、いつのまにか私の心に刻まれていた。

「あっ今日、新聞読んでなかった!」と、夜遅くても、ざっと目を通すことが習慣になっていった。

ひらりとめくっていくと、ぎっしりと記事が並び、大小の濃いめの文字の見出しには、それぞれ主張があるように、目移りした。見出しに惹かれて、全く興味がなかった話題の記事から読みはじめていたり、何気なく読んだ記事の一文が心に残って消えなかつたりすることもあった。

原発事故の時は、毎日、原発に関連する記事を探しては読みまくった。何度も読んで、混乱する心の着地点を探していたように思う。

私も父と同様に新聞を信頼していたのだ。どこよりも、真実を伝えようという使命感を持っていて、これからも、新聞を読むことを楽しみにしていきたい。

読む知る学が E! 新聞